

番号 (都道府県 順)	応募者名 (建築主等)	応募事業名	実証の種類	実証する内容	RC造、S造等他工法との比較にかかる提案	建設地	建築物概要	担当者氏名
1	一般社団法人 日本ツ ハイパー建築協会 代表理事 池田 明	枠組壁工法による中層建 築物の普及に向けた試設 計	(1)非住宅・中高層分野 の建築物における木造 化・木質化に向けた取 組 【技術実証】	当協会では、2015年に中高層建築の木造化普及のため、枠組壁工法による6階建ての試験棟を建築した。今年で9年が経過し、さまざまな試験結果から枠組壁工法における中層建築の基本的な技術は確立した。しかしながら、中層建築の普及は徐々に拡大しているものの、カーボンニュートラルの実現に向けて、さらなる加速化が必要である。法改正により、建築物の部分に応じた応力割増しを行い、構造計算ルート2を実施することで、地階を除く階数6以下が可能となったため、試設計を行い検証する。枠組壁工法を用いた施工性(パネル生産性)に優れた木造中層建築の構造計画、構造計算の試設計(以下、試設計という)を行い、具体的な計画の参考となるリアルな設計例を一般に公開する。	木造建築がRC造やS造などの他の工法と比較して環境負荷が低いことは、既知の知見から明らかである。2050年のカーボンニュートラル実現に向け、木材利用促進法を踏まえた建築物への木材利用が不可欠である。また、高度な特殊技術を必要としない枠組壁工法では、中小規模のコンポーネント会社(プレカット、パネル生産工場)および施工会社でも施工が可能である。施工性(パネル生産性)に優れた枠組壁工法の木造中層建築の普及を推進し、カーボンニュートラルの実現を図る。	茨城県 つくば 市	用途:その他(実験 棟) 構造:木造 階数:6階建て 延べ面積:206.09㎡ 工事種別:新築 竣工:平成28年3月	(一社)日本ツ ハイパー建築協会 開発 部 近藤 浩一
2	一般社団法人 木を活 かす建築推進協議会 代表理事 大橋 好光	構造用木材の強度試験の 高度化に向けた技術開発	(1)非住宅・中高層分野 の建築物における木造 化・木質化に向けた取 組 【技術実証】	構造用木材の強度試験については、ISO/TC165でのWG草案、EN384/408/1193、ASTMD198/1990/4761やAS/NZS4063等を参考に、2011年に「構造用木材の強度試験マニュアル」が作成された。その後、参考としたISO 13910 2005は、ISO 13910 2014として全面改訂され、基準強度に関する部分は新たに制定されたISO 12122 2014に分割された。その間、多様な中大規模建築物の木造化の取組が進められてきており、近年の木材の強度試験やその評価法に関する科学的知見を反映して、構造用木材の強度試験の高度化のための技術開発を行う。	中大規模建築物の木造化の推進や、鉄骨造や鉄筋コンクリート造に構造用木材を用いる木質系混構造を推進していくため、構造用木材の強度試験・評価法についての高度化に向けての検討が重要である。本事業の取組により、構造用木材の各種強度特性値が精査されるとともに、他の構造部材と比較した際の単位重量当たりのコスト面での優位性や課題等についても、分析・比較検証することが可能と考えている。	東京都 文京区	用途:ホール 構造:木造一部鉄骨 造 階数:2階建て 延べ面積:998.77㎡ 工事種別:新築 竣工:平成12年3月	(一社)木を活かす 建築推進協議会 飯野 貴